

N I D



2011 January 009

長岡造形大学 卒業・修了研究展

2011 2.5^土～8^火

**NIDでの4年間
ボクたちが見つけたそれぞれのカタチ**

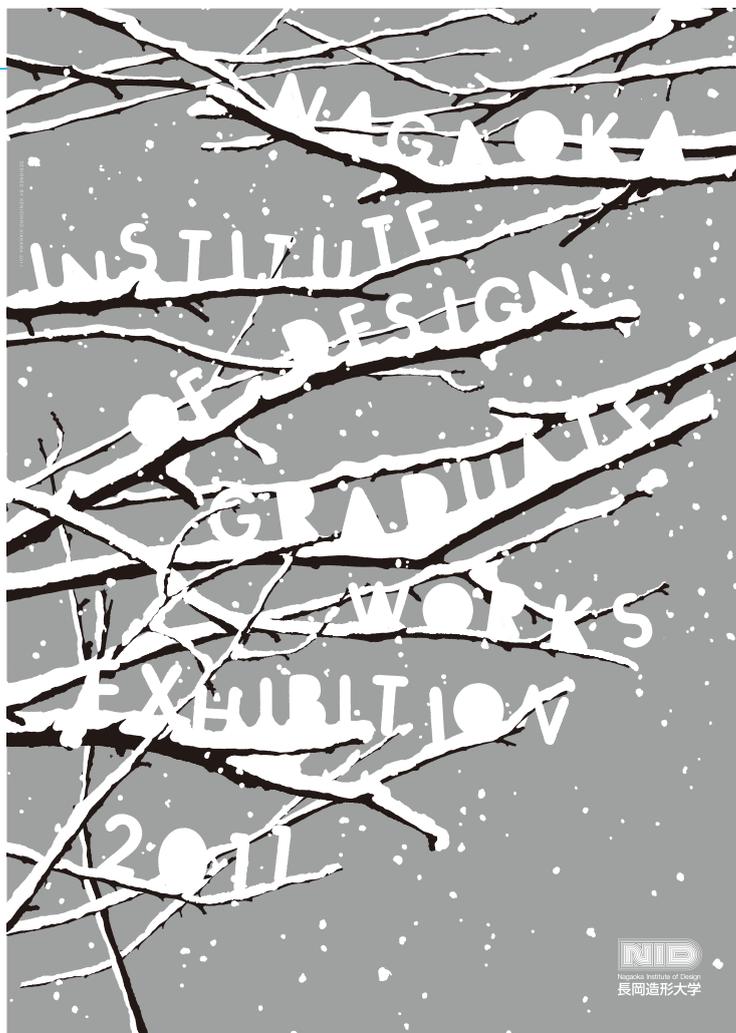
学部4年生、修士2年生にとって2月は「卒業・修了研究展」の月。学部生にとっては4年間の研究の成果を発表する、最大のイベントとなります。学生の本気が感じられる個性あふれる作品たちにぜひ注目してください。

日時：2011年2月5日(土)～8日(火)

10:00～18:00

(初日は12:00から。最終日は15:00まで)

会場：長岡造形大学 入場無料



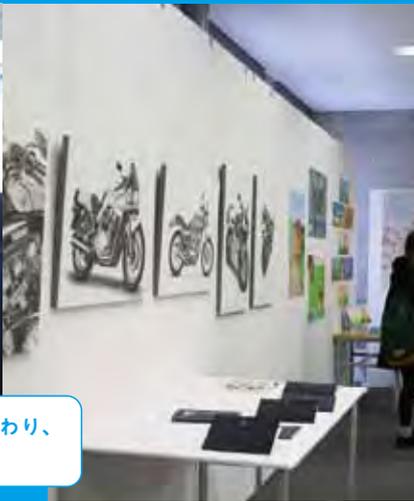
デザイン：視覚デザイン学科 准教授 吉川 賢一郎



今年は第3アトリエ棟も加わり、
展示もパワーアップ!

🔄 2010 プレイバック

※昨年度の卒業・修了研究展の様子です。



卒研に取り組む 4年生に 聞きました。

もうすぐ
発表

- Q1:** 卒業研究で
取り組んでいる内容
- Q2:** みんなに見てほしい
作品のポイント
- Q3:** 将来の目標や夢

A1: マンガは、さまざまな角度からのアプローチにより、もっと多くのおもしろい表情を見せてくれるジャンルだと思い、今回は半立体という手法で「マンガをより魅せる空間演出」をテーマに作品を作っています。

A2: 普段みなさんが読んでいる平面のマンガとは少し違う、ポップなマンガを楽しんでいただければと思います。

A3: マンガを描いている人なら誰もが一度は夢見る「マンガ家」。僕もそれを夢見て、「このマンガに出逢って良かった」と思っていたような作品を作っていました。マンガ最高!!

前田 光一郎 KOICHIRO MAEDA
視覚デザイン学科
ヴィジュアルデザインコース
出身：小千谷高等学校（新潟県）
マイブーム：ぶらり原付放浪の旅



A1: 「0と1の間」をテーマに油彩による絵画表現をしています。

生まれる前の世界(0)と生まれた後の世界(1)には隙間があります。その隙間の世界と生まれた後の世界とを、幼い子供たちは行き来できるのではないかと考え、絵画でその「間」の世界を表現しています。

A2: 私の作品の中で、常に子供たちは水と共にあり、曖昧で不思議な空間の中にいます。みなさんも幼い頃の不思議な記憶や、子供と触れあった時に感じる不思議な感覚をこの作品たちを見て思い出していただけたら嬉しいです。

A3: 卒業後は、働きながらも自分の制作を続けていこうと思っています。社会に出て思ったこと、感じたことも作品制作へ活かし、今よりもっと幅のある作品づくりをしていきたいです。

坂井 友美 TOMOMI SAKAI
視覚デザイン学科 ヴィジュアルアートコース
(現：美術・工芸学科 絵画コース)
出身：三条高等学校（新潟県）
マイブーム：ハムレット

A1: 私は「花と蝶」というテーマで制作しています。花は蝶に花粉を運んでもらい、蝶は花から蜜をもらい、自分の糧にします。花と蝶は、お互い必要とし合い、誰が決めたわけでもない関係を築いています。私はこの「関係」をとて美しいと感じ、これを私らしく表現したいと思います。

A2: ただ平面に絵を描くだけではなく、切ったり、折ったり、貼ったりしてやりたいことを詰め込みました。正面からでなく、いろいろな角度から作品を見てほしいです。

A3: 私はこれから何かを作り続けたいです。自分の頭の中で考えていたことが実際に形になった時は、とてもうれしいです。そして、それを見た人が自分と違う考えをもってくれたり、共感してくれたりするのは楽しいし、勉強になります。

小黑 美香 MIKA OGURO
視覚デザイン学科 ヴィジュアルデザインコース
出身：万代高等学校（新潟県）
マイブーム：人間観察



🕒 2010 優秀賞受賞者インタビュー

Q1: 研究テーマ

PEACE [アイデアの追求]

Q2: 作品のコンセプト

デザインにとって大事なものは何だろうか。いいアイデアとは何だろうか。ということ常々考えながら大学生活を送ってきました。テーマに選んだPEACE(平和)は人にとって最も普遍的で、身近なテーマです。このテーマに対してどれだけ表現を出せるか、多くのアイデアを出す訓練をすることで今後の自分の表現

の幅を広げられるのではないかと考え制作しました。

Q3: 作品制作を振り返って

僕の場合、わりと早くからテーマが決まっていたのですが、違うテーマを選んだ方がいいのではという迷いが生じ、制作が止まってしまったこともありました。しかし、先生の助言や友人の支えもあり、一つのことを貫くことの大切さに気づき、やり通すことが出来ました。そして、「デザインにとって一番大事なのは、そ

こに伝えるためのアイデアがあるかどうか」という自分なりの答えを見つけることが出来ました。それはデザイナーとして働く今でも変わることなく一番念頭に置いていることです。

Q4: 大学生活で一番打ち込んだこと
デザイン(笑)です。デザインが持つ力。人と人をつなげ、生活を豊かに、楽しくすること。大学生活の中で僕はかけがえのない、恩師や友人と出会い、何よりも本気になって打ち込めるものを見つけられたと思います。

デザインの力が僕の人生を変えてくれたといっても過言ではありません。

Q5: 高校生の皆さんへのメッセージ
NIDはひとことといえば自由です。「何をしてはいけない」ということがない。そして自分がこれと思ったことをとことんやっていける大学です。設備も充実しています。やりたいことを後押ししてくれる優しく、優秀な先生方、大学のスタッフの方々、これだけそろった大学は、なかなかないのではないのでしょうか。NIDにいれば、自分のやりがいをみつけられると思います。



阿部 光一郎 KOICHIRO ABE
2010年 視覚デザイン学科 卒業
2010年 株式会社ヘルメス入社
出身：五泉高等学校（新潟県）



デザイン × 建築 × 構造

建築・環境デザイン学科 特集



江尻教授 インタビュー

構造と“モノ”の形は、密接な関係があります。

構造だけでモノの形が決まるのではなく、また、デザインだけでモノの形が決まるわけではありません。

同じ人が同じモノを室内で造るか、屋外で造るかによってもモノの形は違ってきます。屋外は気温や湿度の差が激しく、また風などの影響を受けますが、室内にあるモノは、その影響が無いので、同じモノでもより繊細なモノを造ることが出来ます。モノを造るうえで、風や気温差などを計算することは重要なことですが、その計算方法や解析を学んだことがない人でも、人々は日常の中で自然に構造を考えながらモノを造っているのです。

また、新しい素材の使い方を考える時はチャンスです。それまでの歴史で蓄積が無いので、その素材の性質を一から確かめていかなければいけません。

強度を確認したり、温度に対する性質を確かめたり、加工のしやすさを考えるとおのずとその素材に適した形が見えてきます。安全性を考慮すると、一般的にモノの形は重く見える方向になってしまいますが、安全性を確保しつつ出来るだけ軽く見せようとするだけでも、モノの形に変化が現れておもしろいモノになります。そして古い素材でも、従来使われてきた使い方ではなく、その性質を見つめ直すことによって、また違った形のモノが出来上がります。

このように、環境や素材の性質を考えることが構造からデザインを考える一歩となるのです。

江尻 憲泰 NORIHIRO EJIRI
建築・環境デザイン学科 教授

千葉大学大学院工学研究科（修士課程）修了
和島村統合小学校、千葉市立美術館、
新長岡シティホール「アオーレ長岡」など
数多くの建築物の構造設計に携わる



授業風景の 紹介

「人間キャンティレバー」実験の様子。どこにどのようにかや重さが伝わるのか、体験型課題をととしてその原理を学びます。



江尻教授が構造設計に携わった長岡市内中学校新校舎の見学。



上海で開催されたプロの建築家が参加する展示会では、展示作品制作のプロジェクトに参加。建材や接合部の引張り強度試験や実験データの収集、モックアップ（模型）の組み立てなどを担当しました。



江尻研究室の 活動紹介

構造模型コンペ：

第1回構造模型コンテスト(JSCA 新潟主催)
総合3位 美観賞 力自慢賞
参加大学の中では最上位の成績を取めました。



フランスに設置される振動を伝えるモニュメントを模型で実験。

基礎造形実習【構造デザイン編】

あらゆる造形活動の基本を身につける1年次必修授業「基礎造形実習」では、建築・環境デザイン学科の学生を始め、全学科の学生が造形課題をととして「構造デザイン」を学びます。



お知らせ

長岡造形大学では、校友会員の一級建築士、宅地建物取引主任者の資格取得を支援するため、日建学院と、受験対策講座の受講料に関して優待が受けられる提携を結びました。詳しくは校友会HPをご覧ください。 → <http://www.nid-aa.net/>

映像編集室 & オーディオスタジオ

学生
レポート



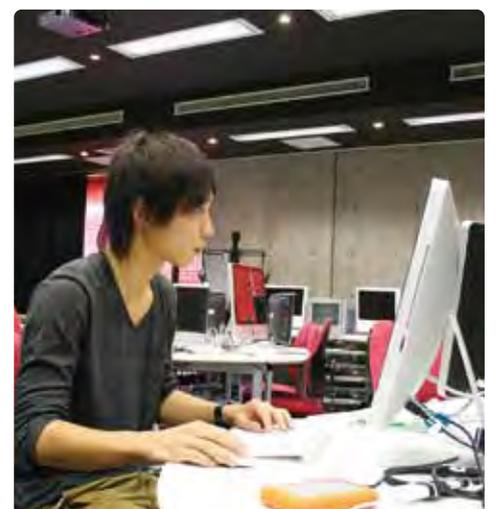
映像編集室①には、名前の通り映像を編集するためのさまざまな機材やソフトがそろっています。VHS、DVD、レコードなど、さまざまな記憶媒体をパソコンに取り込むことができます。パソコンの隣にあるモニター②で正確な色を見ながら作業できるので、スムーズに制作が行えます。

現在、先輩の卒業研究のお手伝いで実写映画のカメラマンをしています。現場③で撮影したものを、この映像編集室で編集します。

編集では、写真加工の「Photoshop」④、映像加工の「After Effects」⑤、映像編集の「Final Cut Pro」⑥などのソフトを使っています。他にも、「Illustrator」⑦や「Flash」⑧などのソフトも入っているので幅広い制作がこの部屋で行えるのも良いところです。

また映像編集室の隣にあるオーディオスタジオ⑨では、音声などの録音・編集が行えます。ブース⑩で音声などを収録し、コントロールルーム⑪ですぐに編集をすることができ、CMやアニメーションなどの制作で、このスタジオはとても重宝しています。

瀧澤 俊輔 SHUNSUKE TAKIZAWA
視覚デザイン学科 写真・映像コース 3年



就活通信

学生&保護者の皆さんにとって
有効な就職活動の情報を発信していくコーナーです。

「超氷河期」のなかでの就職活動

最近、新聞やテレビで2011年3月卒の大学生の就職活動状況が報じられています。現時点での内定率の低さから「氷河期の再来」「超氷河期」とも称される厳しさのなかでのNID学生の就職活動をご紹介します。



4月からの内定者数の推移を見ると、昨年と比べ前半は苦戦していたもののじわじわと追い上げ、9月以降は昨年を上回ってきました。11月末の内定者数は昨年同時期と比べ4割増しとなっています。夏以降、あきらめずに就職活動を続けていた学生たちが次々と内定を獲得した結果です。

職種では内定者の6割以上がデザイナー、商品開発、設計等の専門職に内定しています。加えて、専門職以外の場合でも4年間勉強したデザインスキルを評価されての内定が多く、実質的には8割以上の学生が専門を活かした就職先を得ています。



内定者についての評価は高く、中には大学名を伏せて作品選考したところ3名の内定者中2名が本学学生になったとおっしゃる東京のデザイン事務所もありました。

内定状況が昨年よりはやや好調とはいえ、まだ就職活動を継続している4年生がいることも事実です。何人もの学生が長引く活動に心が折れそうになりながらも、絶対に就職すると心に決めて日々頑張っています。



そんなNID就活生を支援するために4名のスタッフが求人開拓、就職講座の企画、書類添削、面接練習などの業務を行っています。また、11月からは毎週水・木曜日の2日間、進路や就職活動に関する相談を専門に行うキャリアカウンセラーを招き、相談受付体制を強化しています。教授陣も企業を紹介したり、応募書類を添削したり、学生の就職活動支援に熱心に取り組んでいます。長岡造形大学では、内定を獲得するまで教職員が一丸となって応援します。

就職活動に備えて

採用側の企業の方にお話を伺うと、一様に
といったお言葉をいただきます。こうした能力はどうしたら高めていけるのでしょうか。

コミュニケーション能力のある学生がほしい

今の若者には主体性がない

それは「大学の外に出ること」です。

たとえば、制作した作品を社会に出してみる。コンペに出品するもよし、展示会を開いてみるのもよいと思います。自分の作品について、学外の方に見てもらい、評価を受けることには非常に勇気が要りますが、自分の想像以上に好評だったり、いただいたコメントから新しいアイデアを思いついたり、何かが変わることを実感できる経験です。また、展示会を開く場合には、展示スペースの手配やダイレクトメールの作成、展示会の運営などを通じて、ギャラリー運営者、印刷業者、展示会を見てくれた方などさまざまな人と関わることができます。

他にも、ワークショップや教員の関わる学外プロジェクトへの参加など、学外の方と関わるチャンスはたくさんあります。大学のカリキュラムにも地域社会や地場産業と協同で行う授業があります。こうした機会を逃さず、積極的に挑戦していくことで企業の求める主体性、コミュニケーション能力は自ずと身についていくのです。

最後に、「今まで何もしてこなかった、どうしよう」と考えている就活生にひとこと。就職活動も学外活動のひとつです。就職活動では企業の方はじめ学外者と関わる機会がたくさんあります。「主体性やコミュニケーション能力が低いから就職できない」のではなく、就職活動を使って主体

性やコミュニケーション能力を高めることもできるのです。

就職する、社会に出るといことはさまざまな人と関わっていくことです。ほんの少しの勇気を出して大学の外に出てみましょう。



2010年度 グッドデザイン賞 受賞!

NIDの卒業生・在学生・教員などが関わったデザインが多数受賞しました。



中小企業庁長官賞(特別賞)

X線異物検査機 SX 2040Wシリーズ

デザインの目的は、「生活の質を向上させること」です。X線異物検査機は、安全な食品をみなさんの手に届けるために、食品工場で使われています。しかし従来機は大型・高価で非常に導入し難いものでした。本機は、前例のない小型デザインと低価格を実現し、直感的に使える操作パネルを採用しました。圧倒的多数を占める小規模食品工場で手軽に扱える初めてのX線異物検査機で、安全・安心な食品を広く消費者に届けることを目指したデザインです。

会社では商品デザインを中心に、カタログ、広告、HP、展示会ブースの装飾、新社屋のプランニングなどを手がけています。強い企業メッセージを発信するために、それらのデザインが全てリンクしていることはとても重要です。大学で最初に教わったことは、自分の専門にこだわらず、広い分野のデザインに触れることでした。その感覚を身体で学んだことは、今も生きていて、私の財産になっています。

齊藤 寿満 HISAMITSU SAITO
産業デザイン学科
工業デザインコース 1999年卒業
(現：プロダクトデザイン学科)
勤務先：株式会社システムスクエア



ストール [ITO / WAVE, CONTRAST, FLASH]

愛媛県今治市の工房織座から新しく立ち上がったストールブランド「ITO」のデビュー製品で、グッドデザイン賞をいただきました。今回の受賞商品は、私たちの専門分野のグラフィックとは違う「織物」の製品です。実は初めて織物のデザインをしました。工房織座の方から「新しいブランドを立ち上げたい」とご相談を受け、ブランドのコンセプト・ネーミング・ロゴ・製品・パッケージ・カタログ・webなどの全てのデザインを担当させていただきました。初めての地方の工房との仕事でしたが、刺激的で可能

性を感じました。今後もこのような仕事を増やしていきたいです。

NIDは、4年間で幅広い分野の勉強や体験ができ、さまざまなものに興味を持つことができる環境だったと思います。大学でボーダーレスであることに抵抗なくいられたことが現在のSPREADの原動力にもなっていますし、今回の初挑戦の織物のデザインでも受賞をすることができたのではないかと思います。

2人とも会社勤めの期間に、共同で応募したデザインコンペに入賞したことがきっかけとなって2006年に㈱スプレッドを立ち上げました。現在の主な仕事内容は化粧品やセールスプロモーションアイテム・商業施設のキャンペーン・CDジャケットなどのグラフィックデザインを中心としたものと、ストール・掛け時計・パンツなどのプロダクトデザインです。今現在はミュージシャンの flumpool と私たちのアートワーク「Life Stripe」とのコラボレーションによるNewアルバムのジャケットデザインが進行中です。



SPREAD (スプレッド)

小林 弘和 + 山田 春奈

HIROKAZU KOBAYASHI + HARUNA YAMADA

産業デザイン学科視覚デザインコース 1998年卒業 (小林)

(現：視覚デザイン学科)

環境デザイン学科空間デザインコース 1998年卒業 (山田)

(現：建築・環境デザイン学科)



インテリアホン JD-7C1CL/CW

社内で固定電話の新しい価値を創出するプロジェクトチームが発足し、各部署の若手が集まり、デザインセンターからは私が参画しました。チーム内で話し合いをした結果、「固定電話はいらない」「隠しておきたい」などネガティブな意見が大半でした。そこで、「飾りたくなる電話機」というコンセプトのもと、デジタルフォトフレームと固定電話を融合した商品像が浮かび上がりました。またiphoneなどに代表されるタッチパネル型のインターフェイスも取り入れる事で、従来にはない操作が可能となり、新しい体験をユーザーに届けられるのではないかと考えました。

現在、先行開発チームに在籍しており、海外向けスマートフォン、電子書籍、モバイルPC、電子辞書、ホーム端末などを担当しております。

石田 一宏 KAZUHIRO ISHIDA
産業デザイン学科
工業デザインコース 2002年卒業
(現：プロダクトデザイン学科)
勤務先：シャープ株式会社



デザインは「インテリアコンシャス」という考え方で、電気製品とはかけはなれた存在にしたいと思い、オブジェや彫刻のような存在感を目指し、360度どこから見ても美しく、置き場所を選ばないものにしたかったため、背面にもこだわっています。造形には非常に苦勞し、電話やFAX機能を備えたこの商品は、内蔵物のボリュームが大きく、フォトフレームのように薄くはありません。設計陣と何回もやりとりを重ね、いくつもラフモデルを作成し、今のフォルムを作りあげてきました。今回の受賞は、妥協する事なく商品開発に取り組んだ結果であり、学生時代にこだわって課題を作成した経験が活かされたと思っています。



写真：新建築社

山古志閼牛場リニューアル

設計・デザイン：山下秀之教授、江尻憲泰教授、同山下研究室(朝野剛、山下真理子、桑野洋紀、廣田真治、武井奈津美、諏佐圭太郎、柿崎洗哉、渡辺宣一、ケ・エム・イフテカル・タンヴィル)+大原技術株式会社



長岡造形大学 第3アトリウム棟

デザイン：株式会社日本設計